

地域の今を見て、問いを深める。フィールドワークをしました！



「問い」「仮説」「検証方法」など、探究活動の基礎を学んだ1年生が、いよいよ現地に飛び出しました！

5月15日、釜石市内の7か所で実施されたフィールドワークでは、それぞれのテーマに沿って地域の方々に話を伺い、自らの問いを深める貴重な経験をしました。

釜石市国際外語大学校

外国人と日本人が共に
暮らしやすいまちとは？



テーマに対する生徒の問い・仮説についてのレクチャーや、異文化理解として留学生との交流。生徒たちは「共生」の具体策について、生活面や意識の違いを中心に問いを掘り下げました。

企業診断士

もし自分たちが起業したら？



起業そのものや、地域の課題解決型ビジネスについて学習。実際に起業した若者の話も聞きながら、最後はどのようなビジネスをするか考え合いました。

岩手大学三陸水産研究センター

海洋プラスチック(海ごみ)問題を
解決するためには



深刻化する海洋プラスチック問題について、研究現場での対策や最新技術を取材。生徒たちは自らの仮説と照らし合わせながら、プラスチックと共生する社会のあり方を考えました。

三陸ひとつなぎ自然学校

いつもの暮らしが防災につながる
仕組みを探そう(フェーズフリー)



「フェーズフリー防災」＝日常と防災の境目をなくす発想に注目。生徒たちは日常生活の中に潜む防災のヒントを探しながら、地域住民との協働の重要性を学びました。

仲見世商店街

デザインが人や町に与えるもの



かつて賑わいを見せた商店街を歩きながら、「デザインが人や町に与える影響」を探究。看板や建物の工夫、まちの雰囲気づくりなど、視覚的要素が人の行動にどう影響するかを観察しました。

ラグビー普及コーディネーター

釜石がもっと「ラグビーのまち」として根付くにはどんなことができるだろう



「ラグビーのまち」としての釜石の魅力と課題を確認。試合の盛り上がりと地域活性の関係、ラグビーがまちに与えるインパクトについて考える場面が多く見られました。

釜石市社会福祉協議会

“みんな”が健康で幸せに暮らすため
自分にできることは何だろう



釜石市内の健康課題や福祉の取組を学習。生徒たちは「見えにくい困りごと」に目を向けるきっかけを得ました。また、保健師など様々な方から、生徒の事前学習のフィードバックを得ることができました。

生徒の反応・御礼

今回のフィールドワークは、ただ現地を訪れるだけでなく、「問い」や「仮説」をもとに、現地でしか得られない情報や気づきを得ることが目的でした。生徒たちから寄せられた感想には、その狙いに合致した学びや成長の様子が多く見られました。

釜石の健康課題や障がいの現状について初めて知ることができた

起業の難しさだけでなく楽しさも感じた

外国人の方と会話して、文化の違いよりも共通点を感じた

新しい問いが生まれたので、今後も探究を続けたい

このように、フィールドワークを通じて生徒たちは知識だけでなく、自分自身の問いと向き合い、地域との関わりの中で学びを深めていました。探究活動の本質である「現場から学び、考え、行動する」姿勢がしっかり育まれていることが伝わってきました。

今回のフィールドワークは、地域の皆さまのご協力があつてこそ実現できました。ご対応いただいた皆様に心より感謝申し上げます。